

第25回

高校生による海外エネルギー事情研修会 実施報告書

パズル ～組合せよう！ エネルギーと私たち～



平成31年 3月 5日
青森県商工会議所連合会

1. 研修参加者

〔高校2年生 6名〕

青森県立田名部高等学校

アベ ヒロト
阿部 拓登



青森県立三本木高等学校

イワハラ トシキ
岩原 聖樹



青森県立弘前高等学校

ウジイエ アスカ
氏家 明日香



青森明の星高等学校

カワグチ リンナ
川口 凜南



青森県立木造高等学校

サカイヤ リン
境谷 凜



八戸工業大学第一高等学校

マツハシ イオナ
松橋 以央和



【引率者】

青森県立三本木高等学校 教諭

相馬 奈緒

青森商工会議所 地域振興部 部長

鈴木 匡

2. 本研修の目的

◆欧州2ヶ国のエネルギー事情を学び、資源に乏しい日本の将来のエネルギーはどうあるべきなのか、その中で青森県はどんな役割を果たすのが望ましいかということをも自分自身で考える

◆様々な視点で物事を見つめることや、海外の異文化に触れることで、自分自身の「成長」につなげる

◎発表や議論の場を通じて、「自分の意見を述べる力」を身につける

□ エネルギー施設の視察(日本、フランス、スウェーデン)

□ フランス・スウェーデン 両国の高校生との交流

○英語による自己紹介

○日本についての説明(文化・生活など)

○エネルギー問題に関するプレゼンテーション&ディスカッション

○その他文化交流、食事会など

□ フランス・スウェーデン両国の文化(歴史、食、習慣など)に触れる

□ 多くの人たち(生徒、引率者)とのコミュニケーション

3. 全体スケジュール

- (1)募集案内 8月15日 県内全高校に案内文書発送
 9月21日 募集締切 29校41名応募

- (2)当選通知 10月11日 当選通知文書発送

- (3)事前研修会① 11月 4日～ 5日(むつ市他)
 東北電力(株)東通原子力発電所、
 日本原燃(株)原子燃料サイクル施設他を見学

- (4)事前研修会② 1月 5日～ 7日(青森市)

- (5)海外研修 1月28日～ 2月 8日(12日間)

- (6)青森県知事報告会および座談会 3月 5日

4. 海外研修日程（1）

	月日	行 程	実 施 事 項
1	1/28 (月)	青森県内各地⇒東京駅 ⇒東京(泊)	●新幹線で東京へ移動 ●スウェーデン、フランス両大使館を表敬訪問
2	1/29 (火)	羽田⇒パリ⇒カーン(泊)	●飛行機でフランスへ移動 ●到着後、バスにて移動
3	1/30 (水)	カーン⇒モン・サン・ミッシェル ⇒シェルブール(泊)	●世界遺産「モン・サン・ミッシェル」見学
4	1/31 (木)	シェルブール⇒ラ・アーグ ⇒シェルブール(泊)	●オラノ社「ラ・アーグ再処理施設」見学
5	2/ 1 (金)	シェルブール(泊)	●グリニャール高校生徒との交流会・夕食会
6	2/ 2 (土)	シェルブール⇒パリ(泊)	●バスでパリへ移動 ●ルーブル美術館見学 ●前半の成果と反省を振り返り
7	2/ 3 (日)	パリ(泊)	●パリ市内見学 ●飛行機でスウェーデンへ移動の予定が、航空機の機材故障のため、フライトできず。パリ(ドゴール空港)に留まる。

4. 海外研修日程（2）

	月日	行 程	実 施 事 項
8	2/ 4 (月)	パリ⇒オスロ経由⇒ストックホルム ⇒ウプサラ(泊)	●前日の機材故障等の影響により、この日は移動のみ
9	2/ 5 (火)	ウプサラ⇒エストハンマル ⇒ウプサラ(泊)	●フォルシュマルク技術高校訪問 ●フォルシュマルク中・低レベル放射性廃棄物 貯蔵施設見学 ●カテドラル高校生徒との夕食会
10	2/ 6 (水)	ウプサラ(泊)	●カテドラル高校生徒との交流会
11	2/ 7 (木)	ウプサラ⇒ストックホルム ⇒(機内泊)	●カテドラル高校生徒の案内でウプサラ市内 見学 ●飛行機で帰国の途へ
12	2/ 8 (金)	⇒羽田⇒東京駅⇒青森県内各地	●羽田到着後、東京駅から新幹線で移動

5. 参加者の個人目標（1）

高校生6名は全員で相談し、研修期間中の全体目標(スローガン)として、『パズル ～組合せよう！エネルギーと私たち～』を掲げ、個人目標も設定して今回の海外研修会に臨みました。

阿部 拓登	エネルギー・原子力学習面	●学校で学べることではないので、内容は漏らさず身につける。また、知識を身につけるだけでなく、考えを広げ、自分なりの意見や疑問を持つようにする。
	現地高校生との交流面	●友達をつくるつもりでコミュニケーションをとる。 ●緊張しても笑顔を忘れずに！
	生活・文化面	●日本と異なる点を探してみる。街並みをよく見る。 ●気になる点を見つけたら、何のために？そもそもそれが何なのかを考えてみる。
岩原 聖樹	エネルギー・原子力学習面	●海外のエネルギー事情についての理解を深め、日本との違いから日本のエネルギー問題の解決について考察する。
	現地高校生との交流面	●積極的に話しかけ、相手に自分の思いや考えを伝えたり、友達をつくったりできるように努める。
	生活・文化面	●何気ないものにも興味・関心を持ち、異文化への理解を含め、国際的な視点を育てる。

5. 参加者の個人目標（2）

氏家 明日香	エネルギー・原子力学習面	<ul style="list-style-type: none">●自分の意見を持ち、日本の友達と話すように活発に話す。●エネルギーについて、新しい発見をする。
	現地高校生との交流面	<ul style="list-style-type: none">●英語だけに頼らず、現地の言葉を吸収し、話そうとしてみる。
	生活・文化面	<ul style="list-style-type: none">●津軽弁とフランス語は本当に似ているか確かめる。
川口 凜南	エネルギー・原子力学習面	<ul style="list-style-type: none">●現在のエネルギー状況を学び、1人の高校生として意見を持ち、日本人としてエネルギー問題と正面から向き合いたい。
	現地高校生との交流面	<ul style="list-style-type: none">●自分が持っている英語力を最大限に使い、進んで自分から話しかけたい。
	生活・文化面	<ul style="list-style-type: none">●ヨーロッパの文化を肌で実感したい。

5. 参加者の個人目標（3）

境谷 凜	エネルギー・ 原子力学習面	●エネルギーについての理解を深め、今の私たちができることを見つける。
	現地高校生と の交流面	●相手からではなく、何事も勇気を持って自分から行動する。
	生活・文化面	●日本との共通点や違いを見つけて、帰ってきてから周りの人に紹介できるようにすること。 ●目、鼻、耳、口、肌など、自分の持つもの全てで、その時にしか感じられないことを感じる事。 ●初めから物事を決めつけず、どんなことにも好奇心を持って挑戦する。
松橋 以央和	エネルギー・ 原子力学習面	●限られた時間しか聞けないので、積極的に質問し、有意義な時間にする。
	現地高校生と の交流面	●帰国後も話せるような友達をつくる。ジェスチャー。
	生活・文化面	●フランス、スウェーデンは日本とどのような点が違うのかを知る。

6. 研修スナップ ①

◆平成30年11月4日～5日（第1回事前研修会）



写真①



写真②

写真①

・エネルギー事情学習会他

写真②

・六ヶ所原燃PRセンター視察

写真③

・東通原子力発電所視察



写真③

◆平成31年1月5日～7日（第2回事前研修会）



写真①



写真②

写真①

・プレゼン資料の事前発表会

写真②

・放射線基礎講座(実験他)

写真③

・前回参加者からアドバイス



写真③

◆平成31年1月28日（出国前日の大使館訪問）

<スウェーデン大使館>



<フランス大使館>



6. 研修スナップ ②

◆平成31年1月30日(「モン・サン・ミッシェル」見学)



◆平成31年1月31日(ラ・アーク再処理施設見学)



◆平成31年2月1日(グリニャール高校 生徒との交流)



6. 研修スナップ ③

◆平成31年2月2日(ルーブル美術館等パリ市内見学)



◆平成31年2月3日(ノートルダム寺院、エッフェル塔等パリ市内見学、航空機故障によりパリからフライト出来ず)



◆平成31年2月5日(フォルシュマルク技術高校、中・低レベル放射性廃棄物貯蔵施設見学)



7. 研修を終えて（1）

阿部

拓登

私たちは、「パズル ～組み合わせよう！エネルギーと私たち～」という目標のもと、12日間に及ぶ海外での研修に取り組んできました。この目標には、エネルギーにも私たちに長所、短所があるのでお互いを上手く組み合わせでより良いものをつくらうという意味が込められています。

研修の中では現地の生徒とディスカッションをする機会があり、エネルギーの長所と短所の理解を深め今後どのようにしてより良いものをつくるか考えることができました。

岩原

聖樹

私は、エネルギーの面について、同じことをするにも国の事情によって、様々な視点から対策を講じる必要があり、それぞれの国にあったそれぞれの方法をとる必要があることが分かりました。

現地の高校生は、自国が抱える問題に対する意識が高く、さらに自国だけでなく日本のエネルギー問題についても考えを述べるができる生徒が多いことに驚きました。今回、そのような海外の高校生と交流・会話をすることで、自分の意見を相手に伝える能力を成長させることが出来ました。

海外は、日本と違った考えに触れることが出来るので、今回出会った人と交流を続け、留学なども考えたいと思いました。

7. 研修を終えて（2）

氏
家
明
日
香

今回、フランスとスウェーデンを訪れ、再処理工場や放射性廃棄物貯蔵施設の見学と技術高校訪問、現地高校生とのディスカッション・交流などを行い、とても充実した研修となりました。

エネルギーに関するディスカッションでは、質問のために多くの生徒が手をあげ、エネルギーに対する意識の高さを実感しました。文化交流では、書道を行い、現地高校生の名前を漢字で表現しました。皆が喜んでくれたので嬉しかったです。

私は将来、アナウンサーになりたいと考えています。今回の研修会を通して、自分のコミュニケーション能力・表現能力に自信がつかましたし、言語への強い興味がさらに強まったことを実感しています。この経験を生かして、エネルギーに関して大学で研究し、その知識を報道の現場で活かすことを目標に、日々精進することを誓います。

川
口
凜
南

今回、フランスとスウェーデンでの研修というなかなかできない経験をさせていただきました。施設見学、現地の高校生とのディスカッションやモンサンミッシェルやルーブル美術館などいった観光など、新しい土地に行く度にたくさんの発見や驚きがあり、毎日が冒険のようでした。

一番不安だった現地の高校生とのディスカッションや交流では、初めは緊張して自分から進んで話せませんでした。エネルギーのディスカッションや好きなことを話すうちに自然と英語で話しかけていました。研修中は1日1日過ごすごとに自分が成長していることがわかり、とてもやりがいを感じました。そして、2週間一緒に過ごした仲間との絆も深めることができました。

7. 研修を終えて（3）

境
谷
凜

研修を終えて、物の見方や考え方が変わったことを実感しています。生まれた場所も育った環境も違う同世代の人との交流を通して、物事をより幅広い視野でみることができるようになりました。

また、コミュニケーションの中で、相手の言いたいことがわからなかったり、自分の言いたいことがうまく伝わらなかった時に、もっと相手のことを理解したい、自分の思いを伝えたいと思い、英語の大切さを改めて実感しました。「話す英語」を勉強しているいろいろな世界の方々と交流したいと思いました。

今回の研修は、これからのことを考えさせられるきっかけになりました。

研修会は終わりましたが、これは終わりではなく、私たち一人ひとりにとって、未来に向かっての新たなスタートであると思っています。この経験を糧に、自分の未来に向かって大きく前進していきたいです。

松
橋
以
央
和

私は「何事にも積極的に取り組み、得るものが多い研修会にする」という目標を持ちフランス、スウェーデンへ行きました。

英語がほとんど喋れない状態でディスカッションが出来るのか不安でしたが、単語やジェスチャーなどで大体のことが伝わり、初めて英語を話すのが楽しいと感じました。

今まで、英語は勉強・高校で学ぶものという捉え方をしてましたが、現地の高校生との交流や会話を通して、英語は自分の意見を伝える手段として有効なツールであると考えられるようになりました。

私は将来の夢がまだ決まっていませんが、研修会を終えて、「海外へ出る」という新しい夢の選択肢が出来て嬉しく思います。